様式２

会議録審議会等

審議会等の名称	令和４年度第３回山口市環境審議会
開催日時	令和５年１月１２日（木）　１４：００～１６：００
開催場所	山口市不燃物中間処理センター　２階会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	青木委員、荒木委員、浮田委員、沖川委員、北村委員、高田委員、樋口委員、福田委員、復光委員、福代委員、山中委員、横山委員　敬称省略・順不同 （１２人）
欠席者	為水委員、福浪委員、前田委員、
事務局	（環境部）　：山田部長、森野部次長、徳田参事兼清掃事務所長 （環境政策課）　：江村課長、今谷主幹、谷口主幹、長尾副主幹、 山本主任主事、児玉主事 （環境衛生課）　：山田課長 （環境施設課）　：木原課長 （資源循環推進課）：中村課長 （清掃事務所）　：徳田清掃事務所長・・（兼務）　（１０人）
議題	１．開会 ２．議事 （１）山口市環境基本計画中間見直し（案）について （２）山口市環境基本計画中間見直しに係る答申（案）について （３）今後のスケジュールについて ３．その他
	次第に沿って以下のとおり進められた。 ＜事務局＞ 配布資料の確認 【環境部次長あいさつ】 ＜会長＞ 会議内容について原則公開とし、議事録についても公表させていただくことを提案→了承

	＜事務局＞ （１）山口市環境基本計画中間見直し（案）について 資料２山口市環境基本計画中間見直し（案） ・資料３御意見御提言等に関する回答一覧 資料に基づき説明 以下、各委員及び事務局の発言要旨 ＜委員＞ ２８ページ、下の進行管理指標について。これは現在アンケート調査を集計中ということですか。 ＜事務局＞ こちらにつきましては、今年度実施したアンケートで数字が取れておりませんので、目標数値の80％というところは、国が行っているアンケートの目標値が80％とされており、そちらと整合する形で定めております。 ＜委員＞ 実績として、山口市の現状がどれぐらいかという数値はないが、国の目標値を参考にされたということですね。今後、実績値が高ければ、それを踏まえて、目標の再設定をされるということはありうるということでしょうか。 ＜事務局＞ そうですね。基準値をふまえて修正するという可能性はありますが、国が実施しているアンケートと同じ設問で結果をとりますので、山口市が明らかに高いようであれば、また違ってくると思いますが、大体このような数値結果になるのかなという印象です。 ＜委員＞ はい。分かりました。ありがとうございました。 ＜会長＞ 循環型社会の形成において、基本的な点は、食品由来の廃棄物の循環が出来ているのかという点が大きいと思います。ほとんどが焼却処分となっています。あとはし尿汚泥。特に山口県の場合は、セメントになっているものが多いです。これは土に

	戻らないので、それは循環型社会と言えるのかという基本的な認識が希薄ではないかなと思います。 　今、プラスチックの問題は世界的に非常に重要視されていますが、そういった問題においても環境基本計画にも記載があってしかるべきではないのかなという気がします。 　この計画は、非常によく出来ていると思いますが、基本的な問題としての認識が弱いので、そういったところの改善の余地があるのかなという気がしました。それと、循環型で言いますと食品ロスがありましたが、食品ロスは基本中の基本です。食べられるものを簡単に捨てるなということです。なるべく循環させると。山口市は有機農業に対する関心も非常に高いほうだと思います。それと、プラスチックごみの関係で海洋プラスチックごみも本当に大きな問題です。ポイ捨てを簡単にしている人が多く、そういうものはやらないようにしましょう。とかそういった記載も必要なのではないかと思います。 ＜委員＞ 　46ページに、地域脱炭素先行地域に選定されましたという記述がありますが、市報とかには掲載されているのでしょうか。 ＜事務局＞ 　市報という形で掲載しておりませんが、市のウェブサイトには掲載をしておりますし、環境省のホームページのほうにも、11月1日に選定をされたということが出ております。 ＜委員＞ 　ウェブ上に載っているのは分かりますが、そうではない人（ウェブが見れない人）にも、分かるように、宣伝をしていただいて、そして、山口市民がみんな誇りをもって環境行政に協力しようというふうになるように、宣伝をしていただいて。具体的取組についても記載して、もっと宣伝して、（市民への）環境教育となるように行ってほしいです。 　私は、生ごみが出ることはほとんどなくて可燃ごみはほとんどないのですが、プラスチックごみは、いろいろ買うのを控えても、どうしても出てきます。積極的に使わないようにするとか、そういう取組を、（業者へ働きかけるなど）山口市が先進的に進められるとありがたいと思います。 ＜事務局＞ 　まず、先行地域選定についての周知というところでございますが、市報については年間行事として出しております。委員さんが言われる、その取組の中身の部分についてというところにつきましては、今、先行地域の提案という計画内容が認めら

	れたというところで、今後、実現に向けて進めていくことになります。その辺が明らかになりましたら、改めて、様々な機会をつくって情報発信してまいりたいと考えております。 ＜会長＞ 　プラスチックでいうと使い方ですよね。そういうものは市だけでは対応出来ない部分もあるので、その場合は、市のほうから、国等に働きかけるということも必要ではないかなと思います。 　一昨日周南市の環境審議会の関係があったのですが、周南市は企業がすごく多いので、それはそれで難しい。山口市は、目立った大きな企業がないので、ある意味では、市民がどういうふうに対応できるのかにかかってくるので、そういう意味で逆に難しいというのもあると思います。 ＜委員＞ 　脱炭素先行地域、こういうふうな取組をされて、中心地域だけやりましょうと。こういう流れの中で、今、この見込みというのはどれぐらいなのでしょうか。清掃工場の廃棄物発電で賄っても足りないのではないでしょうか。 ＜事務局＞ 　脱炭素先行地域の提案という形で提出して、選定を受けたところでございますが、先行地域における電力につきましては、清掃工場の発電で十分足りる状況になっております。 　考えとしましては、清掃工場の廃棄物発電を活用して、この先行地域内の公共施設等にまずは送り、供給をすることを考えているところでございます。今後、地域新電力会社を立ち上げて、供給する形をとるのですが、会社の経営状況とか、今後の収入見込み、そういったもの踏まえまして、順次、公共施設や、公有地等に、太陽光発電を整備する中で広げていくということを考えております。 ＜委員＞ 　地域新電力に関しては、例えばFITが終わった住民の方から、電力を買い上げるという取組予定になっているのでしょうか。 ＜事務局＞ 　おっしゃるとおりでございまして、基本的には先行地域の中を、カーボンニュートラル、CO2を実質ゼロにしていきますので、現在、様々な電力契約をされていらっしゃると思うのですが、それを、地域新電力会社における再生可能エネルギーを供給するというところの電力の切替えについて、御理解御協力をお願いするというところでございます。

＜会長＞

関連して言うと、山口市は中心市街地が、賑やかなほうですよ。そういう場所でモデル事業を行われるということなので、市民が市街地によく出かけるということでないといけないと思います。

そのためには、移動手段を今までどおり、ノーマイカーデーをやるとか、そういうレベルではなくて、例えば、山口市の総合計画の策定委員もされている鈴木春菜先生のお話を聞いたのですが、豊橋市は、市役所職員の通勤手当を、自動車通勤よりも、自転車通勤をしている人のほうが、2倍ぐらいに設定したそうで、そうすると、自転車や公共交通で来たりする人が増えたと。そして、中心市街地に、図書館だとか、子どもが遊べる場とかそういう施設をつくっているとそういうところに人が集まってると。これは自動車だと、駐車場が必要なこともあるでしょうし、総合的に考えてやらないといけないと思います。

＜委員＞

事前に資料を拝見したところ、行政、市民が、どういう行動を具体的に起こさないといけないかというステークホルダーの役割がしっかりと書かれていて、この辺は非常に分かりやすくて、いい計画だなあというふうに感じました。

少し前から思っていることを言うと、最近行動経済学というか、人間の意思決定の中で、自分自身に、どういう形で、メリットがあるかということを考えて意思を決定するというような、そういう考え方があって、それで、例えば、ごみの捨て方とか、そういったことも、自分の生活にどういう形で、メリットが出てくるかというのは、もう少し分かると、アクションしやすくなるのではないのかなと。

例えば私の母親が昔ごみの廃棄場で働いたのですが、そのときによく聞いていた話が、ごみは結構水を含んでいるので、それを燃焼させるには重油などと一緒に燃やすと。

これはコストももちろんそうですし、二酸化炭素排出という意味でもそうですし。

28ページに市民の取組と書いてあって、「水切りや生ごみ処理機の活用により、ごみの減量化に努めましょう」とありますが、これをもう少し突っ込んでいくと、一晩きっちり水を切った生ごみを出すと、今よりこれぐらいの年間予算が削減できますよとか、CO2も削減出来ますよと。さらに浮いたお金で、小学校の施設を整備しましょうとか、市内の美化に協力しましょうとか、そういうふうに、自助努力で、私たちの暮らしがよくなるのだというような、そういう、書き方もあってもいいのかなと。

そうすると、ごみに使って、予算をうまく活用して、市民が生活改善できるというような、いわゆる自分ごとの形で考えられるので、その辺をもう少し工夫していただくとごみに関する関心も高まってくるのかなと思いました。

あと、取組が多岐にわたっていて、ごみの問題が一つの部署ではなかなか難しい、横断的じゃないといけないと。例えば、山口市で、我々の生活の中で、二酸化

	炭素をどこで排出しているかというと、大きな部分として、必ず車だと思います。特に、過疎地域は、自家用車乗り合い運動などで、二酸化炭素を半減するような、社会基盤の維持だと思いますが、山口市は、過疎地域は交通問題が非常に多くなったりするし、ほかにも商店街の経済の問題も絡んでくると思うので、その改善策を検討するようなコミュニティがあったほうがいいだろうなというふうに感じます。 　もう一つ。私は農業を研究しているのですが、この1、2年で化学肥料の価格が倍増しています。エコな暮らし考える上では、そういう地域以外の、資源を、わざわざ高いお金を出して買い、二酸化炭素を出しながら、持ってくるという、今までの経済モデルから、もう少し地域循環型にする工夫というのもあっていいのではないかと思います。仕入れることは難しいと思うのですが。 ＜事務局＞ 　先ほどの御意見につきましては、水切りをしたことによって、どれだけの予算還元も含めて、反映できるかというところであると思うのですが、今回の計画案については、今後の参考にさせていただきたいなというところで、この参考といたしましては、先進地域自体の計画の情報収集の中で、どういった反映をされているか、また今後のモニタリングの関係についても年次の環境概要がございますので、その中で、進行管理できるものなのか、その辺、研究させていただきたいなと思っているところでございます。 　あと、先ほど、自動車の廃棄物、ガソリンの関係が出たと思うのですが、先行地域に選定されたことによって、今の計画内容につきましては、本市が、ガソリン消費量が全国でトップクラスに多いということは、現状を踏まえた中で、地域脱炭素の取組として、例えば、まちなか居住の促進にもつながるのですが、いわゆる、２代目の子育だて世代の方々や、若者世代の方々が、ここに住むとなると、今、１人１台の車を所有している中で、２台目も所有するコストというところを踏まえて、公用車を使ったＥＶカーシェア、そういったものも考えております。そういったものは、結果としてまちなか居住の促進にもつながりますし、ひいては、二酸化炭素の削減、電力消費量の削減にもつながる。先ほど中山間地域についても少し御提言がありましたが、そこに、ここの先行地域の取組で得られた成果を、今後、そういった先行地域以外への取組についても、地域の特性等を生かして、小型ＥＶの関係の活用だとか、地域交通の確保というところも研究していきたいというところも今後の進め方として取り組んでいきたいと思っているところでございます。 　農業の関係でありましたが、それにつきましては、気候変動計画のほうについても様々な気候変動に応じた栽培方法とか、そういった品種改良だとか、そういったものに、今後、取り組んでいく要素があると思いますので、その辺は関係部局とも連携しながら、進めていきたいというふうに考えております。

	＜会長＞ 　先ほど言われたお金だけの問題ではなくて、車に頼らなければ、健康寿命が延ばせるという利点もあります。そうすると、介護保険とか医療費とかかかりませんから。 　ごみの問題について、うちは食べ物のごみはすべて埋めています。すごい分解力ですよ。そうすると燃えるごみを出すのは月１回です。そういうメリットもあります。 ＜委員＞ 　今、仕事で商店街のほうで、起業家支援とかをしているのですが、６３ページの、地域脱炭素の取組で、中心商店街の出店及び企業支援、スタートアップ支援というのがあるのですが、これは、商店街に出店をしてもらって、お店が増えて、そこのお店にここで発電したエネルギーを使ってもらうことが脱炭素につながるという理解でよろしいのかなというところが確認したいです。 　意見としまして、商店街は人通りも多いですし、新しい店舗が出来たり、入れ替わりが激しいのですが、起業してお店を出したいという思いはあるけれども、家賃が高いのと、商店街自体が、結構老朽化が進んでいて、改装が必要で改装費もかかるというところがあって、町全体の老朽化対策とか、そういうのも含めて、進めていく必要があるのかなと思います。 　１行で書かれていますが、結構壮大な、取組の想定ではないかなというふうに思いました。 　今は、結構人通りが多いですが、１０年後２０年後はどうなるのかなというのがあって、台風があるたびに屋根が飛んでいったりしているので、この辺もちょっと対策を考えないといけないということを思いました。 　プラスチックのリサイクルのところですが、周りのママ友の話を聞くと、またリサイクルできるからいいのでは？というような考えで、分別をしっかりしていれば、リサイクルしているからいいだろう。という考えの人も結構いて、ただリサイクルするにはエネルギーもかかってくると思うので、ペットボトルを使わない。減らすということが１番大事ではないかなと思うので、リデュースのほうに力を入れるのがいいと思います。 　あと、選ぶーのぬりえのコンテストがあったと思うのですが、保育園の友達が受賞をしまして、保育園で表彰されて、それをきっかけに、環境問題のほうにも興味を持っていたので、そういう内容のイベントは、いい取組と感じています。 ＜事務局＞ 　中心商店街における出店及び起業支援、スタートアップ支援というのがあるのですが、これにつきましては、先ほどこの地域を再エネ電力の供給ということで、そういった脱炭素化というようなところはもちろんでございますが、出店企業支

	援につきましては、例えば、環境関連企業の誘致というところで、その上のほうにありますが、新規出店、既存の商店、そういったものの経営基盤の強化というところで、省エネ設備、ＥＭＳ(エネルギーマネジメントシステム)といった、そういった導入支援というものも今後考えていきたいというふうに考えております。 　リサイクルの話が出ましたが、３Ｒの中の特に２Ｒリデュース、リユース。まずはそちらを強化していくと、そういうことによって、そもそもの排出量を減らしていくということがもっともな御意見だと思いますし、それについての取組というのは、これからも積極的に進めていくべきだと考えております。 　また、ぬりえコンテストを御評価いただきましてありがとうございます。２年目の取組でございまして、今回２０の幼稚園から、全ての保育園や幼稚園、認定こども園に対象を広げまして、まさに、子どもの世代から今度は保護者と一緒になって、環境を考える機会の創出ということで、取り組んだところでございます。そういった御評価いただきまして大変ありがたく思っておりますし、今後、続けていく中で、いろいろな世代、また現在、川柳コンテストというのもやっておりまして、いわゆる高齢者の方だとか、多世代にわたっての環境教育、環境学習の機会というものを創出することについて、積極的に取り組んでいきたいと考えております。 ＜委員＞ 　５７ページのところです。高齢者や障がい者の方のごみ出しの問題が書かれていると思いますが、私も団地を建ててから３０年間ということで、３０代、４０代の人が６０代７０代ということになると、地域のごみ出しはなかなか大変だと思います。ご病気等をされれば、なおさらのこと大変と思います。地域のコミュニティの中の共助だけでそれを賄っていくというのはなかなか難しいことと思います。隣近所の声かけというのは見守りにもつながりますし、それはそれでOKかなとは思いますが、団地自体が底上げしていく、みんながみんな、年をとっていくというような状況になって、やはり行政とか、事業所とかが、ごみ出しに関しても積極的に対策を考えていく、事業所がお金を払って、ごみ出しをやっていらっしゃるということは聞いたことがあったので、以前、市ではやらないのかというふうにお伺いしたら、事業所の事業を圧迫するようなことを市は出来ない。とおっしゃられたことがあったので、市はどういう形で、ごみ出し支援というところを考えておられるのかと思うところです。 　それと、研究を進めていく必要があります。と先の話のような感じの書き方なのですが、もう高齢化は待ってくれないので、もう少し積極的に取り組んでいただけたらなというふうに思いました。 ＜事務局＞

	清掃事務所においては、令和３年から試行的に、世帯全員が要介護の方であるとか、障害者手帳もお持ちの方とか、そういったごみ出しが困難な方につきまして、試行的に、戸別収集を行うということで制度化して取り組んでおりますが、実際、申請があるかというと、この約２年間で、申請がない状況になっております。 具体的に、個別の案件で見てみますと、要介護の方であれば、ヘルパーさんとか、そうした介護事業者さんが入っていらっしゃるということがありますので、そういった介護事業者さんが生活支援の中で、ごみ出しをされるとか、共助の中ということで、御近所さんが一緒に出されるとか、一緒に住んでらっしゃらないけれども親族の方であるとか、そういった方が実際は対応されているという状況でございますので、今のところ申請がないということで、そういうこの事業等、今後どうしていくかというところの点とか、今後、必要だと思っております。 ＜会長＞ 用語については本文に注釈があるものもございますが、最後には設けられるのですよね。 ＜事務局＞ 今の計画もありますが、それに対して、新たに必要なものは新たに追加していこうと思っております。 ＜委員＞ ペットボトルについての話ですが、ペットボトルを使用している理由ですが、もともとは、瓶だったわけですね。ただ、重量が重いので一度に運べる量が圧倒的に少ない、それを効率化するために使ったのがプラスチックになったりしているのだと思います。今ペットボトルを減らすと言っているが、その時にはどういう選択肢があって、どうしてペットボトルを採用したのかを考えないといけないのかなという気がします。 今掲げている目標には、多分、その反対の面というのは必ずあって、こうあるべきという議論だけしていると危険なところがあるのではないかと思います。あるいは、後になって、あの時にここに気づかなかったねということになる気がします。そうしたことから、この方針になかなか賛同し切れないというところが、どうしても出てきます。例えば、有機農業の推進ということで、田に、たい肥を入れれば、必ずメタンが出ます。メタンは二酸化炭素の２０倍以上の温室効果ガスの排出係数を持っていますので、有機農法でやると、ＣＯ２であれば光合成とで１：１になりますが、メタンが出ると、２０倍の温室効果があるので、これは完全に負荷がかかります。それから、畑の場合の一酸化二窒素が問題になります。例えば有機農法でも肥料となる窒素分を与えすぎれば、必ず一酸化二窒素がたく

	さん出ます。ですので、有機農業がいいということではなくて、入れすぎない、容量を計算して、この大きさだからこの量を入れるというような考え方でやっていかないといけない。全国レベルでの試算で問題まで出ていますが、廃棄物を肥料に全部変えていくということが出来ない、農地の受け入れるキャパがないということも出ています。我々は専門分野として近い部分があるので、そういうことが見えますが、この計画も全部読んでいくと、そういうのが少しずつやはりあって、焼却炉の熱を使った電気を電線で流して計算だけで省エネとか売電をしたということではなくて、蓄電池にためて、必要な場所に運んで分かるようにしてはどうか。少し、見方を変えてみたらどうかというところはいくつかあります。 　プラスチックに関しては、生活習慣を変えないと対応出来ないというところが、かなり大きいです。例えば、マイボトルを持って出かけて、中身が空になったときにどうするかということで、昔のジュースの販売機というのは、噴水みたいに中で循環させて、紙コップを置いてそれを出す仕組み。今の時代に、それにマイボトルを置いて、ジュースを入れる人がどのくらいいるのか。今と昔では、衛生的に感覚が違っているのではないかという気がしますので、そういうことも考えながら、議論をさせていただいただければと思っております。 ＜会長＞ 　環境問題は総合的に考える必要があります。私も、環境のことを大学からずっと考えておりますが、やはり、今人間が横着になり過ぎて、我々が便利になりさえすればいいというふうな考え方が蔓延してしまったので、こういう状況になったと思います。やはり、このままでは、持続可能ではない社会ですよね。 　ですので、初めにちょっと申しましたが、プラスチックも市でやろうと思っても、対策がとれないというのは、例えば、一過性のプラスチックの使い方をすれば炭素税がかかるとか、そういうことがあれば、自ずとそのプラスチックの使い方が合理的になってくると思います。だから、我々は少々不便になるとしても、そういうふうな考え方ができるかということがすごく大事だと思います。 　今回、重点目標の４に、横断的に、環境教育の重要性というものを置いていただいています。次世代の人も感受性豊かなので、このままではいけないということを感じていると思います。ですので、自分達で考えて議論することが重要だと思います。 　宇部市は 2018 年にＳＤＧｓ未来都市に選定されています。それで、ＳＤＧｓ未来都市計画というものを策定しています。それの関連の管理目標として中学３年生で、自分の将来に夢や希望を持っていますか。ということで聞いていますが、現状、５０％以下です。それは、教育問だけではないですが、彼らが、自分達の将来がどうなるのかということを感じて、それを言ってるわけです。 　本当に難しい問題です。だから、皆が考えなくてはいけない。山口市の総合計画では、非常に若い方が委員になられて、活発な議論をされています。それだけ

	見ても、山口市はなかなか希望が持てるのではないかなというふうに思っております。 ＜委員＞ 　ページの最後に、居住エリアごとの河川・河口エリアというところがありますが、これは日本の大学関係者のせいだと思いますが、最近、瀬戸内海がきれい過ぎて魚がとれないという話を伺います。生態学者によれば、人間の活動全般が悪だから、人間が活動すると、そこは砂漠化しますという発想。 　宍道湖でもあさりが採れないということがあるようで、その発想としては、物質循環、結局、魚介類が食べるミネラルを、どういう形で我々は生活の中で、供給して、海の環境を、壊さないようにしていく。 　これは、非常に高度な教育、「川に汚いものを流すことすべてだめ。」と教えられると思いますが、我々が住む里海や里山というのはもっと複雑で、人間の営みの中で出てくる、廃棄物が自然の生態を豊かにしていることもあります。先ほど、委員さんのお話しにもあったように、なんというか原理的ではなく、ペットボトルを全く使わないほうが、実はエネルギーを使うとか、そういう可能性もあるし、その辺は子供たちにきちんと伝えないと、また長続きしない教育になるのではないかと思います。 　そういう意味ではなかなか計画に書きにくいと思いますが、リアリティーのある話を子ども達は知りたいと思います。少し難しいですが。今の計画を見ると、汚れてきているというような書きぶりですが、実際のところ、ここ２０年ずっと釣りをしてますが、きれいすぎて釣れなくなっています。 ＜委員＞ 　以前から気になっていることですが、山口市で１人当たりのごみの排出量が多いという理由は分かったのでしょうか。水切りが悪いのか。我が家では通販品をよく購入するのですが、大きい段ボールで届いて、そこに詰め物があって、要するに、１回で１つのものを買ってるわけです。都市の場合は１度、どこかのお店でまとめて買ってくることは可能でしょうが、山口にはお店がないので、一つ一つ買って、それが積もり積もっているというような気がします。 　山口市と同じような場所でそんなことはないよという話であれば、違うとは思いますが。 　先ほどのプラスチックの話も、梱包材等がすごく多いので、生活スタイルという話をしたのは、要するに通信販売を控えましょう。ということも議論するのかしないのかも考える必要があるのかなと。 　とりあえず、ごみが多い理由がお分かりになればお聞きしたいです。 ＜事務局＞

	資源循環推進課において、一般廃棄物いわゆるごみの計画を作成しております。冒頭の説明にもありましたが、今年度、一般廃棄物処理基本計画、いわゆるごみの処理の計画というものを、環境基本計画の部門計画として、作成しております。ごみの排出量のお話ですが、令和３年度については、１日あたりが１，０３７グラムほど１人当たりの排出量が出ております。ただし、これは事業系のごみも合わせての算出になっておりますので、一般家庭から出る可燃ごみだけであれば、１日当たり約６７１グラム、これは県内、全国レベルと、大体変わらないぐらいの量になっているので、事業系の一般廃棄物が多いという状況ではあります。 ごみの総量自体は基本的には、年々減少してきております。皆さんの御努力もありますが、事業系の一般廃棄物についても分別をお願いしているわけですが、なかなかその辺の減少が、家庭に比べると、事業所というのはなかなか難しい部分があるのかなとは思います。 そういったところも、市とすればどういった方策で啓発していくのかというところも考えなくてはいないと考えております。家庭系ごみの可燃物については、だいたい、県並びに国と比較して、若干多いですが、遜色ない数字にはなっています。 ＜委員＞ 栄養塩のお話が先ほどありましたので、補足させていただきます。昨年、瀬戸内海特別措置法が改正されまして、栄養塩の管理を各自治体ができるというようなことになりました。それで、我々栄養塩について関係機関と協議をしておりますが、なかなか正直難しいなというのは感じています。やはり、生物サイドからすれば、栄養塩はもう少し流してもらえればというところもありますが、これやはり、水道とか下水道の関係があると、その辺りの問題はあります。確かに、昭和５０年代頃にどうだったのかというとそれは相当汚れていただろうなと。ただそう言いながらも、海苔とかは非常に真っ黒で、上質な海苔が出来たそうです。最近の海苔はやはり色が抜けてなかなか商品価値が上がらない。ただそれだけではなくて、水温が高いというところもあります。テレビでも報道されていますが、東京湾でも一時的に海苔が全部なくなってクロダイが全部食べていくと。通常水温が低いと、クロダイも活性化されずに深いところにいるんですが、温度が高いから、やはり餌も栄養もよくなって、皆食べられているいうような状況で、栄養塩だけの問題だけでもないですが、そういった海の環境も変わっていってるんだろうというふうには思っています。栄養塩については関係部局とも調整はしてるのですが、なかなか一旦きれいになったところをまたどれだけ栄養塩を流していくのかというのは非常に難しいと思います。これも、多くなりすぎると赤潮の発生にもつながるのでその辺の兼ね合いという部分があると思っています。特別措置法が変わりましたが、栄養塩の濃度安定というのは難しいようには感じているところでございます。

（２）山口市環境基本計画中間見直しにかかる答申（案）について

＜会長＞
　次に、（２）の山口市環境基本計画中間見直しにかかる答申（案）についてでございますが、環境基本計画策定部会において、（案）を作成していただいておりますので、策定部会長から御説明をお願いします。

＜策定部会長＞

　資料４山口市環境基本計画中間見直しにかかる答申(案)について説明

＜会長＞
　はい。ありがとうございました。それでは、ただいまの答申(案)につきまして何か御意見ありますでしょうか。

＜策定部会長＞
　先ほども御議論ありまして、先ほど委員さんから言っていただいたような、ほかの施策とも非常に関連した部分が大きいと。例えば森林にも関連しますし、まちづくり、居住生活、その部分で、本文には書いていないですが、意見を付した部分の、「１」の真ん中あたりに、防災・減災、交通、産業振興などという形で、横連携のことを強調して書いておりますので、一応配慮はしているということで御理解いただければと思っております。以上です。

＜会長＞
　この答申の文章と、基本計画の部分に、少しこちらで差し支えない程度に付け加える部分があるかどうかというそういうことも含めて、考えなきゃいけないわけですね。

＜事務局＞
　そうですね。基本的にはこれまで、審議会、策定部会での様々な議論を踏まえて、計画を策定部会の皆さんと一緒に作成しておりまして、ある程度、もう計画自体の中身については、意見を踏まえる形で若干修正をかけていこうとは思いますが、基本的には、計画の骨格となる部分としては、こちらである程度固めていく時期であると思っています。
　１月２６日に、環境審議会のほうから、答申という形になりますので、素材としては環境基本計画の案と、こちらの概要版、答申書を持って、浮田会長さんと福代策定部会長さんのほうからお渡しいただきたいと考えております。議題の２

	としては、こちらの答申の中身として、上段のところは一般的な文章なので、変わわらないと思いますが、下のところは、こういったことを付してもらったらという御意見があればとは思います。 ＜会長＞ 　こちらは会長名になっておりますので、確認させていただいて、差し支えない程度に、直せるのであれば福代部会長さんと御相談の上で修正させていただくかもしれない。そういう感じでまいりたいと思います。 　最後に今後のスケジュールについて事務局からお願いいたします。 <u>（３）今後のスケジュールについて</u> ＜事務局＞ 　資料５山口市環境基本計画中間見直しスケジュールについて説明 ＜会長＞ 　会長あいさつ ＜事務局＞ 　環境部長あいさつ 　閉会
会議資料	・令和４年度第３回山口市環境審議会　次第 ・環境審議会席次表 ・資料１山口市環境審議会委員名簿 ・資料２山口市環境基本計画中間見直し(案) ・資料３御意見御提言等に関する回答一覧 ・資料４山口市環境基本計画中間見直しにかかる答申(案) ・資料５山口市環境基本計画中間見直しスケジュール
問い合わせ先	環境部　環境政策課　総務担当 TEL ０８３－９４１－２１７５